



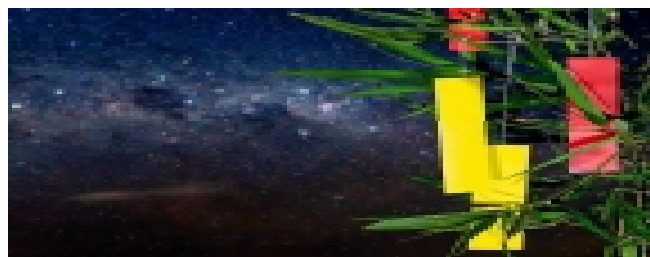
六桜花

やさしく かしく たくましく
～未来を創造的に生きる力の育成～

有田市立
初島小学校
(校長室だより)

R7・7・4

No.26



織姫と彦星の伝説

「天空の主である天帝の娘で、機織りの名人だった織女は、牛飼いの牽牛と恋に落ちて結婚しました。しかし結婚後、働き者だった2人は仕事をしなくなり、それに怒った天帝は2人を天の川の両岸に引き離します。悲しみに暮れる織女を不憫に思った天帝は、年に一度だけ2人を合わせるように計らった」という伝説です。

織姫（織女）はこと座の一等星「ベガ」、彦星（牽牛）はわし座の一等星「アルタイル」という星にあたります。旧暦7月7日は、天の川を挟んでベガとアルタイルが最も輝いて見えることから、この伝説が生まれたそうです。また、ベガとアルタイルに、白鳥座の一等星「デネブ」を加えた3つの星は「夏の三角形」と呼ばれ、広く親しまれています。

現在は新暦7月7日に行われることが多い「七夕」ですが、この頃はちょうど梅雨の時期にあたります。そのため、織姫と彦星の再会は叶わないことも多いのですが、国立天文台では旧暦の7月7日を「伝統的

七夕」と呼び、その日付を広く公開しています。今年の「伝統的七夕」は、8月29日。年によって日付がかなり前後しますが、日本の梅雨明けは平年7月19日ごろですから、「伝統的七夕」の晴天率は高く、月は夜半前には沈み、その後は天の川がくっきりと見える観察条件となります。20時ごろには織姫星（ベガ）と彦星（アルタイル）が空高く輝いているのが見られます。

日本では古くから、祖先を祭る前の禊（みそぎ）がお盆の一環として行われていました。女性が着物を織って棚にお供えし、豊作を願ったり人々の穢れを払ったりするという風習です。選ばれた女性は「機織津女（たなばたつめ）」と呼ばれ、機織りには「棚織（たなばた）」という機織り機が使われていました。七夕が「たなばた」と当て字で読まれるのは、この風習が由来とされています。

今年は梅雨明けが早く、7月7日（月）に天の川が見られるかもしれません。織姫「ベガ」と彦星「アルタイル」の伝説に思いをはせながら、家族で夜空を眺めて、願い事をしてみてはいかがでしょうか。

学校では8日（火）に低学年が七夕集会を予定しています。